

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「子どもを包み込める大人」

『特別支援教育研究9月号 参照』



- ①「嫌だ!」「やらない!」「無理!」と、言葉で拒否や否定をする。(言葉)
- ②活動に参加しない、固まる、パニックになる、泣いて嫌がる。(行動)
- ③目の前の出来事に不安・焦り・恐怖を感じている。(言葉や行動の背景)



【対応のパターン】



①②：言葉や行動のみに着目

- ・イラ立つ大人～強い叱責を与える。(子どもの内面に寄り添わない)
- ・向き合わない大人～諦める、無理をさせない、強制しないなど、自己のやり方を正当化して放置する。(子どもの葛藤に向き合わない)
- ・封じ込める大人～「そんなことくらいでいちいち怒らない」と叱る。(子どもの負の情動をなかったことにしようとする)

③：言葉や行動の背景に着目

- ・包み込める大人～内面の葛藤を理解する、気持ちを言語化する、時間をかけて待つ。

～以前も紹介した「風呂敷の話」～

包み込めるとは、子どもに合わせて柔軟な対応をすることである。旅行で大活躍する風呂敷に似ている。風呂敷は、相手(包むもの)の状態に合わせて大きくも小さくもなる。「子どもに伝える」に通じるところがある。出番が来るまでは折りたたまれてずっと控えているが、いざとなれば大きく広がり全てを包み込む。風呂敷のように、子どもの言葉や行動の背景を包み込める大人になろう。

～心の扉を開けるのは誰?～

子どもの心に扉があるとしたら、その取っ手は内側にしかついていない。外側からいくら開けようとしても効果はない。子どもが心の扉を開けるためには、大人の説教や叱責ではなく、子ども自身がハッとする気づきが大切である。子どもの行動はすぐには変わらない。子どもが「変わりたい」と思える多くの気づきの場を提供するとともに、「この人と一緒なら開けてみよう」と背中を押してくれる大人の存在が必要である。



とれたて直送便



「プラスの言葉を唱えよう」

「バカヤロウ」というマイナスの言葉を唱えながら前屈をする。次に「ありがとうございます」というプラスの言葉を唱えながら前屈をする。プラスの言葉を唱えながら前屈をするほうが身体が曲がる。「バカヤロウ」と心で唱えながら早足で自由に歩き回ると、前から来た人の顔が怖く思えて、目を合わせられなくなる。次に「ありがとうございます」と心で唱えながら歩くと、笑顔で道を譲ったり、うまくすれ違えたりと、歩きやすくなる。よい言葉を唱えようと、よいことが起こる!